

「平和の炎賞」授与式に参加

高知県 建設/総合技術監理部門

右城 猛

(株) 第一コンサルタンツ



まえがき

オーストラリアの名家ハプスブルク・ロートリンゲン家が主宰する平和団体に「平和の炎」がある。2000年に設立され、戦地の子供たちの支援活動などと共に、2008年からは世界平和に功績のあった個人・団体に「平和の炎賞」を贈って顕彰している。

その賞を、高知県立坂本龍馬記念館の森健志郎館長が受賞することになった。「自由と平等と平和」に命を賭け日本を世界に開くきっかけをつくった坂本龍馬の功績を世界に発信していることがその理由である。

2014年5月15日にウィーンで開催された授与式に、日本から坂本龍馬財団の関係者ら16名が出席した。

授与式

授与式の会場は、ウィーン市内のホテル「ザ・リバンテ・パラメント」のレストランであった。

開場時刻の16時30分に中へ入ると、「平和の炎」理事長のヘルタさんと御主人のシャンドルさんが既にひな壇というべき位置に立っておられた。高知市出身でウィーン在住の示野由佳さんがヘルタ理事長を紹介してくれたので、挨拶をさせていただいた。

ハプスブルク・ロートリンゲン家と言えば日本の天皇家のような存在。近くで話しなどできないと思っていたが、とてもフランクでフレンドリーなのには驚くと同時に感激した。

開会の19時になると、会場は120名を超える関係者で溢れた。会場に受付はなく、参加費は無料。誰でも自由に出入りしてワイン



ヘルタ理事長と御主人に挨拶する筆者

やビールを飲み、料理を食べることができた。会場には絵画や絨毯、工芸品などが展示販売されていた。これがチャリティー方式である。「自由と平等」を愛し、格式張ったことを嫌う坂本龍馬には相応しいと思う一方で、トラブルが起きないのか疑問に思えた。

ウィーンは治安が良くない。メンバーの一人は、ブタペストに行く列車の中でパスポートを盗まれた。会場に泥棒が紛れ込んでも不思議でない。

式典に先立ち、ソプラノ歌手の示野由佳さんとテノール歌手のディーター・パッシングさんが、「お龍と龍馬 愛の賛歌」を披露した。坂本龍馬記念館の学芸員の前田由紀枝さんが、森館長の思いを脚本化した歌劇である。今年の4月13日、高知県民文化ホール オレンジで上演され好評を博した。今回の受賞のきっかけは、この歌劇がヘルタ理事長の耳に入ったことにあった。

授与式では、ヘルタ理事長から森館長と示野由佳さんに、トロフィーと表彰状が贈られた。その後で、森館長、坂本家9代目当主の坂本登氏と私の3人がお礼の挨拶を述べた。



坂本龍馬財団のメンバー



近藤愛弓さんの通訳でお礼の挨拶をする筆者

ウィーンに着いて森館長から、「右城さんは龍馬財団の事理として、授賞式で挨拶をしてもらうので何か考えておいて」と言われた。ハプスブルク家の前でスピーチをするなど思っても寄らなかったが、森館長の指示なら仕方ない。次の挨拶文を書いて、通訳の近藤愛弓さんに渡した。

『皆さん、こんばんは。私は、坂本龍馬財団の理事をしています右城猛でございます。この度は、平和の炎賞をいただき、ありがとうございました。日本の奈良や京都には、千年以上の歴史を持つ仏像や寺院がたくさんあります。ここウィーンには、ゴシックやバロックの素晴らしい建物、世界的価値がある彫刻や絵画があります。人類の財産と言うべき文化遺産を守り、そして後世に遺してゆくためには、世界が平和でなければなりません。私たち坂本龍馬財団は、龍馬が目指した戦争のない平和な社会を守るための活動をしています。その活動が、このような形で評価され

ましたことに感謝申し上げます。ダンケ シェーン』

あとがき

オーストリアは、高知と文化がまったく違う縁もゆかりもない遠い国と思っていたが、意外にも共通点やいろいろな繋がりがあった。

まずは、白地に赤い横線が二本入った国旗。海援隊旗と同じである。

「平和の炎賞」の受賞は、日本人では薄井憲二・日本パレエ協会会長、岩谷滋雄・前駐オーストリア大使に次いで3番目。奇遇にも岩谷滋雄氏は、高知県の出身である。

授与式で通訳をされたウィーン在住の近藤愛弓さんのお父上・近藤常恭氏は、会場にも来られていたが、ウィーンで日本食品や雑貨を売る「NIPPON-YA」を運営されている。常恭氏の祖父は、土佐藩士の息子で工学博士の国沢新兵衛。満州鉄道の理事長(総裁)も務めている。その兄の新九郎は、土佐藩より派遣されロンドン留学後、東京に日本初の油絵塾を開き、坂本龍馬の肖像画を描いている。

現在の駐オーストリア大使・竹歳誠氏は、国土交通省の事務次官、内閣官房副長官を歴任されている。その前には尾崎正直・高知県知事の上司。受賞の報告も兼ねて大使館を表敬訪問させていただくと、「四国地方整備局勤務時代に高知へ何度も行った。大好きな県」と気さくに話をしてくれた。

今秋には、オーストリアから高さ2mの「平和の炎」のモニュメントが送られてきて、平和の聖地・桂浜に建てられる。そして、11月24日にはハプスブルク家も来られ、除幕式が執り行われる。日本初の快挙となる。

私が、坂本龍馬財団に入会したのは2012年5月である。その年の7月には、3泊4日の日程で台湾を訪問し、李登輝元総統や許文龍氏にお会いできた。そして今回である。龍馬はすごい。私の周りであり得ないことが次々と起きている。